

むことがわかりました。これを種痘（予防接種）といいます。

この予防接種を、県内でいち早くおこなったのが江藤長俊です。長俊は文化十一年（一八一四年）に、市内大字市野関で生まれ五十六才でなくなりました。先祖は、須賀川のとのさまにかいどうし二階堂氏の家来でしたが伊達政宗との戦いにやぶれ落城らくじょうしたので、市野関に住みついて百姓になりました。

長俊のお父さんは漢方のお医者さんでしたが三十三才の若さでなくなりました。この時、長俊や弟、妹達六人が残されました。お母さんは、貧しさに負けず苦勞して、りっぱに育てたので奉行所ぶぎやうしよ（役所）から感心な母として表彰ひやうしやうされました。

長俊は医者の家をつぐため、十七才で江戸（東京）にゆき、大槻俊斎おおつきしゆんさいのじゆくで西洋（オランダ）の医学を学びました。そのころは、西洋医学のほうがすぐれていました。が、まだまだ漢方医（中国の医学）が多かったころです。長俊はこのあと長崎にも行き、シーボルト（オランダ商館の医者、いろいろな学問にすぐれ